

水前寺江津湖公園の外来植物調査について

環境政策課(旧環境共生課)自然保護班

1

現状

- 指定管理者による駆除が実施されているが、生育範囲の縮小には至っていない。
- 新たな外来植物の侵入や分布拡大が懸念される。
- ▶現状把握調査を実施し、問題点や課題を整理した。

2

調査方法

- 湖面調査(調査日:令和5年2月13日～2月15日)
江津湖の湖面を50mメッシュに区切り、主に船上から目視により外来植物の生育の有無などを記録した。
- ※水路内調査、定点調査は説明省略



4

調査結果

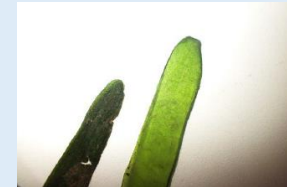
- 10種の外来種が確認された。



- 特にコウガイセキショウモは今回新たに確認された。
- 過年度調査と比較すると、ナガエツルノゲイトウは急拡大しており、オオカナダモは衰退傾向。
- 在来種のうち希少種としてヒメバイカモ、ヒラモ、キタミソウの3種を確認。

コウガイセキショウモとは？

- 本州～九州に分布。
- 「コウガイモ」と「セキショウモ」の交雑種。
- アクアリウムプランツとして流通しており、原産地は不明。
- 常緑で多年草の沈水植物。
- 希少種のヒラモと誤認されることが多い。
(コウガイセキショウモの葉の先端は丸みを帯びており、ヒラモの葉の先端は尖っている)
- 江津湖では切れ藻が水面に溜まることにより、ボート利用に支障が生じたり、悪臭が生じる等の公園利用者への悪影響が問題となっている。



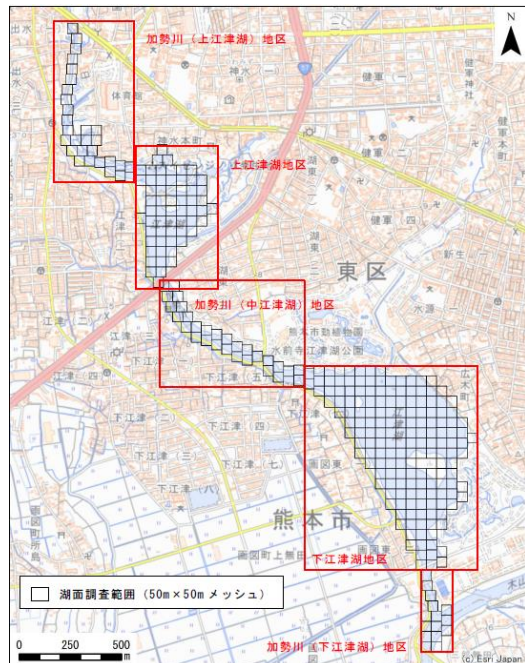
コウガイセキショウモ



ヒラモ

3

調査範囲



5

問題点・課題

- 景観の悪化や悪臭など、公園利用者への悪影響
- 下流域に広がることによる、農業施設への機能障害
- 在来種の生息環境の悪化
- コウガイセキショウモの分布拡大
- 未知の外来種の侵入監視

6

今後の予定

- R5年に夏季調査を実施予定
- 上江津に生育するコウガイセキショウモを駆除予定。
- やみくもに防除作業を続けるのではなく、効果を確認しながら、重点的に守るべきエリアや在来種の復元など、中長期的な視点に基づく全体計画を再検討する。

外来種アプリ「ezuQ」

エズキュー

市民に外来種問題を考えてもらうきっかけとして...



- 熊本県立大学の学生と協働で開発中。
- 指定ポイントが近づくると外来魚がクイズを出題、正解すると先に進めるクエスト方式。解説動画付き。
- 令和5年8月リリース、10月の「江津湖みなも祭り」でイベントを開催予定。
- ▶外来種問題の理解度や、生物多様性の認知度向上につなげる。

熊本市HP「江津湖地域における特定外来生物等による生態系等に係る被害の防止に関する条例」について

https://www.city.kumamoto.jp/kankyo/hpKiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=7881&class_set_id=20&class_id=2713